

## 1 参加型有機認証制度の定義

### 有機農業の参加型認証制度 (PGS) の定義

IFOAM (国際有機農業運動連盟)

Definition of Participatory Guarantee Systems

IFOAM (International Federation of Organic Agriculture Movements)

(日本語)

参加型有機認証制度 (PGS) は、地域に焦点を当てた有機農産物等の品質保証システムである。それは、信頼、社会的なネットワーク、知識の交換・生消交流の基盤の上に、消費者の積極的な参加活動に基づいて、生産者を認定する。

(英語)

Participatory Guarantee Systems are locally focused quality assurance systems. They certify producers based on active participation of stakeholders and are built on a foundation of trust, social networks and knowledge exchange.

## 2. 有機農業の参加型有機認証制度 (PGS) —ビジョンと理念を共有しよう—

Participatory Guarantee Systems: Shared Vision, Shared Ideals

### 有機農業の参加型有機認証制度 (PGS)

—ビジョンと理念を共有しよう—

世界にはいろいろな参加型有機認証制度 (以下、PGS と略。) があり、農家と消費者に役立っている。方法論や手順は異なるが、共通の原理が、国や大陸を越えて明らかに存在する。以下に概略する要素や特徴によって、私たちは共通のビジョンを持つことができるだろう。だがこれは、既存の、または将来の PGS の取組みを画一化したり、“正常化” するために指導するためのものではない。これらの取組みの活力源は、まさに PGS を使う農家や消費者自らが創り出したという、その事実にあるからだ。各々の PGS は、個々の地域、地区、市場(マーケット)に生まれた地域固有のものである。

PGS の基本的な要素や特徴について述べた本文書は、各地の PGS に共通する諸要素を述べることで、その考え方や方法には共通性があることを明らかにするものである。

### IFOAM 「PGS 作業グループ」の使命

「PGS 作業グループ」(訳注・IFOAM は 2004 年に PGS 作業グループを発足させ、PGS について検討を進めてきた。) は、世界中の PGS を発展させるために助け、励ますであろう。私たちは、PGS のもつ基本的な要素や特徴を突き止め、統合化すると同時に、PGS が機能するよう、多様な方法に対して開放的で包含的な態度を持ち続けるつもりである。

## PGSの哲学は、有機農業の理念から生まれた

PGSは、先覚的な有機農家が導きとした有機農業の理想をそのまま吸い上げたものである。PGSの取組みは、化学合成農薬・化学肥料、遺伝子組み換え作物を用いない、根本的に生態系にやさしい農業を求め、長期的な経済的持続性と社会的公正というゆりかごで農民や労働者を支えるものである。それは、基本的に地域（ローカル）で、直接取引に焦点を当てて、地域コミュニティづくり、環境保護、地域経済支援に資するものである。

## PGSの哲学（根本価値）

有機農産物を求める消費者に信頼性の高い保証を与える点で、PGSは第三者認証制度と目的を共有している。両者の違いはアプローチの違いによる。名前が示すとおり、PGSでは農民及び消費者が認証過程に直接参加することが奨められるだけでなく、むしろ要請される。PGSが使われる小規模農場や地域の直接取引においてこそ、このような直接的参加はまさに実現可能となる。関係者が積極的に参加すれば、彼らの権限と責任が強まるのである。

このためには、PGSの取組みは生産者のみならず消費者の知識・能力開発を重視する必要がある。こうした直接的参加によってPGSの取組みは文書作成・記録保存の面倒を少なくすることができる。これは重要な要素である。なぜなら、PGSの取組みは、まさに小規模農家を有機農業に引き入れるためでもあるからである。既存の認証制度は、認証手続きに従っていることを“農民が証明すべきだ”という思想で始まるのに対し、PGSは、その根底に農家への信頼を置いた“信頼に基づいたアプローチ”をとっている。その信頼性は、徹底した透明性・公開性で成り立ち、位階制（ヒエラルキー）や行政の関与を最小化した環境で維持されるものである。

## 重要な「要素」 Key Elements

### 1. 共通ビジョン（位置付け）の共有

PGSの基本的強さは、その取組みを導くのは農家と消費者であるという基本原理を持ち、そのようなビジョンを明白に共有していることにある。実際の参加の程度はPGSの取組みによって多様ではあるが、それがなぜ、いかにしてそうなのかが実際にわかるからこそ、PGSは伸びているのである。

### 2. 参加型

参加型認証は、有機農産物の生産と消費に関心をもつ人々による熱心な参加を前提とした方法論に基づいている。有機農業の原理と原則が、これに寄与するすべての関係者—生産者・コンサルタント・消費者—に適用されるのである。したがって、有機農産物の質に対する信頼性は、参加の賜物なのである。

### 3. 透明性

農家を含めすべての関係者は、この認証のメカニズムがいかにして働くのか、意思決定はいかになされるのかを正確にわかるようにしておかなくてはならない。とはいっても、どんな詳細なことも全員が知っていなければならないという意味ではない。この制度がいかに機能するかについて、全員が基本的理解を持っていればよいのである。認証の意思決定はどのようになされるかという基準、とりわけ、ある農場が認証されない場合、その理由は何かが、人々によくわかるようになっていくべきである。したがって、PGSに関する資料がなくてはならず、それはすべての関係者が入手しやすいことが必要である。

PGSの実施により得られた生産者の営業上微妙な情報やプライバシーは秘密保持されなければならない。だが、このような秘密保持は、透明性の原理を緩めるものであってはならない。それ

は透明性と矛盾するようにみえても、一方のプライバシーや営業秘密と、他方の透明性を目的とした情報アクセスとの間は、はっきりと一線を画すべきである。

#### 4. “信頼に基づく有機性保持”のアプローチ

PGSの支持者は、農家は信頼できるし、有機認証制度はこの信頼を表現すべきであるという信念を固く持っている。それは、有機農家の信頼に基づく有機性保持を確かなものにするさまざまな社会的文化的な管理・監視メカニズムを地域社会は有しているのであり、そのような地域の能力を用いて、これが信頼できるものであることを示すのである。このように、それぞれの地域のもつ固有の質的・量的なメカニズムによって信頼に基づく有機性が保持されていることを図ったり、表明したりすることが認知され、尊ばれるのである。これらの要素は、有機認証制度に不可欠なものである。

#### 5. 永続的な学習過程

たいていのPGSは、単に認証を与えるにとどまらず、地域の持続性と有機的発展を支える手段・メカニズムを与えることをめざしてきた。これによって、農家の生活と地位は強められる。有機農産物の認証に生産・消費に関わるすべての関係者が参加することによって、その認証をする過程を通して、彼らが一定の知識を得ていくということは重要である。農家・コンサルタント・消費者が参加して有機農業の原理原則・規則に適合しているかどうかを苦心して照合・検証していくことは、有機農産物に信用をもたらすだけでなく、その過程自体が永続的な学習となるのであり、地域の能力を発展させるのである。

#### 6. 対等性

対等性とは、権力を分かち合うことを意味する。つまり、生産物や生産加工の有機的品質の検証を少数者の手に集中しないことである。PGSの手続きに参加する人々はみな、生産物や生産加工の有機的品質の確立に対し、同じレベルの責任と能力を持つ。

### PGSの特徴 Key Features

1. 基準は、民主的なPGSの過程を経て関係者によってつくられるものであるが、これは常に、一般的に認められている常識的な有機農産物基準の構成要素に沿ったものである。こうした基準は、有機農業に特有な創造性を刺激すべきものであって、阻害するものであってはならない。
2. 草の根組織： PGSは、関係者すべての積極的組織化に基づいた社会的なダイナミズムの所産とみるべきである。
3. PGSは、小規模農業にふさわしい。なぜなら、この取組みの参加型性格と対等性の構造によって、認証メカニズムはより適正で費用が安くなる。そしてまた、実際、小規模農家の支援を求める消費者を対象とし、そうした消費者が行い、進めるものだからである。
4. その原理と原則は、農家の生活と福祉を高め、有機農業を推進する。
5. 文書管理のシステムと手続き： 農家には最小限の文書作成作業が求められるが、それは、有機農家が有機農業をしていることと生産物の有機性保持を示すものであることが求められる。その方法は、PGSによって文書で明らかにされるべきである。
6. 定められた基準を農家が遵守していることを検証するメカニズム： これは、参加と組織化に刺激を与え、すべての関係者に対し永続的な学習過程をもたらす。
7. 有機農産物を生産し、有機農家として保証された農家を支えるメカニズム： それには、現場アドバイザー・会報・農場訪問・ウェブサイトなどがある。
8. PGSは、最低限の文書を持つべきである。たとえば、既存の基準に同意することを示した農

家の宣誓書など。

9. 有機の地位の証明となるシールやラベル表示をする。

10. 基準を遵守しない農家に対しては、あらかじめ明瞭に規定された規則により対処すること。例えば、データベースに記録する、何らかの方法で公開するなど。

### 3. 有機農業の参加型認証制度（PGS）—小規模農家のためのマーケティングと支援

Organic Agriculture and Participatory Guarantee Systems; Marketing and Support for Organic Smallholders

#### 有機農業の参加型認証制度（PGS） —小規模農家のためのマーケティングと支援—

有機農業は、土壌、生態系、及び人間の健康を持続させる生産システムである。それは、悪影響をもたらす投入物の使用に頼らず、地域の状況に即した生態系の営み、多様性、循環を活用する。有機農業は、伝統と革新と科学を結合して環境との共生をもたらし、公正な関係性を促進し、それに関わるすべての人々の生活の質を向上させる。

「有機農業の原理原則」（訳注・IFOAMは4つの原理原則を有している）に基づいた農業であれば、どのような農業システムでも有機農業とみなしてよい。

ISO認証のような第三者認証とは別に、「有機」であることの品質を市場で保証する方法として国際的に認められた「参加型有機認証制度」（PGS）がある。それは世界中で数千人の農家・消費者が使っている。

#### 認証制度を越えて

PGSは有機農業として誰にも認められ、公にされた基準に基づいている。それは、たいていは、「IFOAM有機生産・加工の基礎基準」に基づき、かつ社会的公正の基準にも言及したものである。農家が常にそれらの基準を守っていると証明するため、組織立った一連の手続きを行う。PGSは、知識と経験を分かち合い、協力して農法を高めてきた生産者グループを支え励ますものである。

#### 透明性と対等性

PGSは、透明で組織だった意思決定手続きを行い、有機農業の保証責任を共有することを目的としている。この有機認証制度は農家・消費者自身によって作りだされ、農家・消費者の直接参加を励まし、ときにはそれを要請するものである。情報公開と評価システムを通じて、信頼は生まれる。

#### 地域的適正

PGSは、それぞれの地域・地区・文化的環境・市場に特有のものである。輸出中心の第三者認証にくらべて、PGSは管理が楽でコストも安い。

#### 地域経済を支える

PGSは、小規模な生産・加工を活気づけることによって、地域の社会経済・自然環境の状況を改善する手段として役立たせることができる。地域市場では、PGSが小規模農家を助けて、その農産物を「有機」と認めさせる。PGSによって、消費者と小規模農家とのネットワークが高められ、小規模農家は、その生産基盤の拡張に弾みをつけることができる。

### 第三者認証は、どの状況にもふさわしいとは限らない

- ・ 輸出市場だけに頼る有機農業生産は、世界市場の外的変化から被害を受けやすく、ますます激化する競争にさらされる。
- ・ 開発途上国では、ふつう、国内の有機市場は無限大である。たいていは多品目少量の生産を行なっている小規模農家に対し、PGSは彼らの農産物を販売するメカニズムを提供する。
- ・ 地域の直接販売目的からみれば、主として輸出に適用される第三者有機認証は「行き過ぎ」であり、小規模農家にとってコストがかかりすぎる。

### PGSの取組みを支えるために、政治家と地域NGO・NPOができること

- ・ 「有機」であることの品質を保証するのに信頼が置け、身近な方法としてのPGSを使った有機食品に対して、地域市場を開く手助けをすること。
- ・ 消費者・生産者のグループがPGSに基づいて地域市場に出ていく際に、役所的な文書作成や行政手続きの負担を軽減すること。
- ・ 商品作物に集中した単作農業を避け、地域内の作物多様性を推進・保護する多品目生産に、励ましを与えること。
- ・ 公正な価格と並んで食の安全や食料主権を達成するため、PGSを通して農家が団結し、農家間相互の評価と支援を強化すること。
- ・ 地域農業に人々の目を覚まさせ、都市の市場を地域・地区の農家に開くこと。
- ・ 有機農業システムの本質的部分としての社会的公正の基準と実践の導入を活発化させること。
- ・ 検証可能なシステムの下に「有機」という言葉を使えるよう、法制化の過程で弾力性を認めること。

出典 <http://ifoam.org> Standards and Certification の Participatory Guarantee System の項  
訳 日本有機農業研究会提携と基準部（2012年3月） Translated by Japan Organic Agriculture Association info@jooa.net

**訳注** ここに訳出したのは、IFOAM ホームページに掲載されているPGSの定義と2つの基本的な資料である。なお、訳語については、PGSを直訳すると「参加型保証制度」となるが、これはIFOAMが推進するものであるので、明らかに「有機」に関する表示の認証制度である。そこで、直訳からはやや離れるが、その意図するところを明瞭に示すため、PGS＝参加型有機認証制度という用語を使うことにした。また、文中では、同じ理由から、「有機」「有機農産物」「有機認定」等を補った箇所もある。原典はIFOAM ホームページ (<http://www.ifoam.org>) から入手できる。翻訳文は、日本有機農業研究会提携と基準部が2010年7月に訳出して会誌『土と健康』2010年8・9月合併号に掲載した翻訳文をより読みやすく改訂した2012年3月の訳文である。 日本有機農業研究会